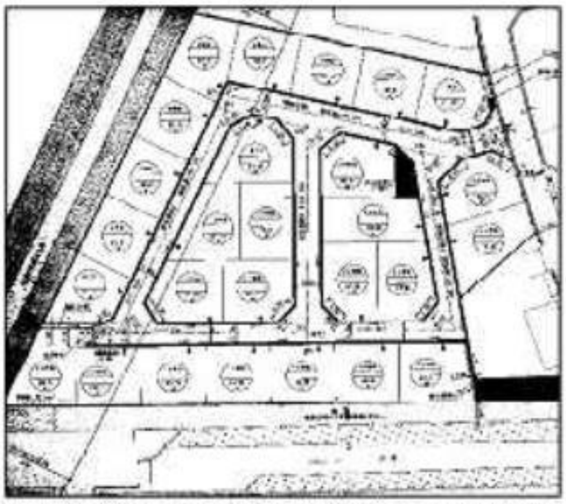
町内の動き

分譲住宅団地の造成着々と

― 烏城彫会館跡地に 27 戸 ―

予ねて計画されていた「積水ハウス」の分譲住宅団地が着々と進行している。烏城彫会館跡地（御南中学校の西、県公社の東）に、分譲住宅27戸が新たに誕生する運びだ。今年1月から会館の取り壊しが始まり、現在（3月20日）敷地造成の最盛期を迎えている。本年6月頃には区画整理（別図参照）も出来上がり、早ければ、夏ごろから新築家屋の着工も始まる予定である。家屋が立ち並ぶと、この辺りの光景は一変し新しい街並みが誕生することになる。



笹ヶ瀬川河川改修工事始まる

― 堤防の嵩上げ延伸 ―

計画的に進められていた笹ヶ瀬川堤防の嵩上げ工事が、平田地域に続き辰巳水門南から今保通学橋までの工事が始まった。堤防沿いに高さ80センチメートルのコンクリート護岸が5月中旬頃までには完成する予定である。引き続き、御南大橋北までの工事も予定されており、この地域の水害に対する安全確保に大きく寄与してくれるものと思います。

防犯燈 LED 化の推進

― 平成 27 年までに順次切り替え予定 ―

既にお気づきかと思いますが、町内の防犯燈 76 基を、蛍光燈から LED 燈に切り替えております。岡山市の助成をいただき、毎年計画的に切り替えていく予定です。蛍光燈に比べ明るく省エネタイプ、しかも長持ちする LED 燈を推進することで、少しでも「あんしん・あんぜんの街づくり」に役立つことを願っております。

談 笑

■小豆島の銚子渓に野生猿を餌付けした「お猿の国」がある。厳寒になると、暖をとるため仲間たちが身を寄せ合って寒さをしのぐ「微笑ましい」光景が見られる。いわゆる『猿だんご』である。聞くところによると、輪の中心にいるのは猿のボスで、序列の低い猿ほど外側に押し出される厳しい社会だという。■一方、南極に生息するペンギンたちも、吹き荒ぶ冬の木枯らしから体温を守るため、身を寄せ合い暖をとる。こちらは子どもを中心に親たちが周りを固める。さらにペンギンは、風を直接受ける風上の個体と、風下の個体とで位置を交代しあって、長時間のブリザードをもしのぎ、お互いを守るという。■生活環境やそれぞれの生態の違いなどから、群れをなす形に違いはあるけれど、どちらも仲間同士が一致団結してひとつにまとまることで、厳しい環境を生き抜くための知恵である。■ところで、あの痛ましい事故から1年が過ぎ、いまだ復興の兆しが見えない東日本大震災。被災地の皆さんの生活を慮ると心が痛む。■震災直後の日本人の行動に「思いやりの深さ」「忍耐強さ」「社会性のすばらしさ」などが外国メディアに賞賛され、家族や隣人同士の絆の強さや、思いやりの心の深さに感動する場面をニュースで何度も拝見した。■ところが、1年が経って多くの自治体が、がれきの受け入れを拒否していることについて「どこに『絆』があるのか」と、連帯意識が失われた日本に警鐘を鳴らしている。■日本人の持つ「思いやりの心」が、いま試されている。群れを成し、お互いを助け合う「猿」や「ペンギン」たちを見習い、『絆』社会の大切さを今一度考え直すときではないでしょうか。（OS）